

社会福祉法人の
生活困窮者等に対する
「地域における公益的な取組」
好事例集



令和4年3月28日



社会・援護局福祉基盤課

7. 自立・宿所提供支援

No	所轄庁	法人名	取組の名称	対象	取組概要	始めたきっかけ	つまずいた点	取組の効果
1	栃木県	同愛会	自立準備ホーム	刑務所出所者等	平成31年2月から行き場のない刑務所出所者等を受け入れる自立準備ホームを保護観察所より受託している。宿泊場所、食事の提供と共に毎日の生活指導を行い、安定した生活基盤確立を支援している。また、被保護者の状況に応じて、保護観察所、地域生活定着支援センター、地域包括支援センター、障害福祉サービス事業所、ハローワーク等と連携を図り円滑な社会復帰を支援することで再犯、再非行の防止につなげている。	障害者の支援を通じて、障害者の触法や再犯、または誤認逮捕などの社会的な課題に対し、複数法人と連携したセーフティネット拠点事業や地域生活定着支援センターを実施していく中で、衣食住や居場所が重要であるとの認識に至り、取り組みを開始した。	高齢により、生活意欲や認知・身体機能等の低下が見られ、自立準備ホーム内でも日常生活がままならない被保護者がいた。その為、地域包括支援センターや介護保険事業所と連携を図り、高齢福祉サービスを利用して生活できるように調整を行った。	宿泊場所や食事の提供をするともに、自立生活に必要な生活指導を行うことで、生活基盤が安定し、生活意欲や自立意欲の向上や再犯防止についての意識づけにつながった。また、必要に応じ、求職活動や退去予定先に関する調整や助言を行い、退去後の生活を整えることで、円滑な社会復帰につなげることができた。
2	神奈川県	至泉会	社会貢献活動(横浜保護観察所)	保護観察対象者	保護観察中の少年が地域社会に貢献する活動(施設でのレクリエーションへ参加し、利用者や触れ合ったり、清掃活動の手伝い等)を通じて、人の役に立てるといった経験や社会の規範を学び、立ち直ることができるよう協力する。	当時、当所に勤務していた職員が保護司を務めており、当所で保護観察者の社会貢献活動へ協力できないかと相談があり、当法人の理念と合致するため受け入れを開始した。	つまずきではないが、障がいを持つ方と普段接点がない方たちに活動当日に初対面で関わってもらうので、活動中は不安感や緊張感をなくすよう働きかけを行っている。(一緒に活動し、ほめたり、前向きになるような声かけを行っている)	毎回、活動後に保護司から、活動中の保護観察者の行動に他者を気遣う様子が見られるなど、こうした活動は保護観察者の立ち直りに役立っていると感じていると報告があるので、効果があるのではないかなと思う。
3	甲府市	和告福祉会	契約入所	高齢者、障害者問わず、生活困窮や様々な理由にて在宅生活が困難な方に対し、低額での一時的な居場所提供や保護、問題解決までの相談支援、他サービスが開始されるまでの緊急的保護。	介護保険等の制度などからでは、救えない方への緊急保護支援。	数十年前に制度化された養護老人ホームの制度は、他の諸々のサービスが発展し、その当時に定められた入居対象者は激減しており、ベッドの空床がめだつようになってきたこと、しかし発展した福祉制度と制度の間で苦しんでいる方まだまだいることが多く、次なる養護老人ホームの役割は、ここにあると感じました。制度化された措置の入所者をただ待つのではなく、余っている福祉の機能を活かし、困っている人を救いたい。制度の無いところで活動してこそ福祉である事を信念に、養護老人ホームの未来の為に、本サービスを開始しました。	契約入所をする時点で生活保護を切られてしまつ事で幅広く人を救えていない。契約入所での生活保護の打ち切りは、現実的でない。サ高住では生活保護の継続ができるのに、養護の契約入所で生活保護を打ち切るのは疑問が残る。その制度が無ければ養護はもっと多くの人の救済ができると感じています。	法人内のどのサービスより、困っている人に速やかに手を差し伸べることができた気がします。現在はコロナのため検査等で少し時間が掛かっていますが、それでも相談に来る方には喜ばれています。
4	大阪府	みなと寮	衛生改善事業	ホームレス	衛生状態の改善が必要なホームレスに対し、洗濯や入浴の機会を提供すると同時に、生活相談及び自立支援施策の説明等を行い、路上生活の解消を支援する。	生活相談と併せて入浴や洗濯の機会を提供することで、ホームレスの衛生状態の改善、健康の確保に努める。	-	・生改善が必要なホームレスに対し、洗濯や入浴の機会を提供すると同時に生活相談及び自立支援施策の説明等を実施できた。
5	大阪府	みささき会	無料低額宿泊事業	緊急で住まいを失う可能性の高い方やホームレス状態の方	疾病や雇止め、災害など複合的な理由で住まいを失う方に対し、無料低額宿泊所を一定期間活用することで、社会復帰への足掛かりとする。制度につながる方や就労に結び付くなど、自立へ向けた伴走型支援を実施。	生活困窮者レスキュー事業を行う中で、住まいの確保が難しいケースが多々あった。地域で生活困難に陥っている方への伴走型支援をより手厚く行うため、自法人で無料低額宿泊所を運営することとした。	地域の理解もすっかり得られたが、設置の説明は丁寧に行った。	生活保護につながるまでの3週間程度、住むところがない方の一時避難所としての機能が、火事で住まいを失った方の緊急避難先、コロナ禍での突然の解雇により強制的に社員寮を退去させられた方など様々なことが原因で住まいを失った方への緊急支援ができた。無料低額宿泊所を活用しながらアルバイトを開始し、生活資金を一定貯蓄した段階で、次の住まいを見つける方など生活再建の場としても機能している。

No	所轄庁	法人名	取組の名称	対象	取組概要	始めたきっかけ	つまづいた点	取組の効果
7	小松市	大和善隣館	入学金免除	高齢者向生涯学習講座の費用負担軽減	「であい・ぬくもり・まなびあい」を目標とし、地域在住の55歳以上の中高年を対象に生涯学習講座を開設。生涯福祉の統合を目指して温かい交流を深める。生涯学習講座は、趣味と教養の向上を目指す16講座を運営中	中高齢者の生きがいの醸成。	就労人口が減少している昨今では、高齢者の雇用期間が増え、新規の入構生が減少している。	健康寿命の延伸
8	静岡市	玉柏会	ペアレントトレーニング	知的障害を持ったお子様の親	障害を持った子供を育てている保護者（親・・・ペアレント）に対して、どのように接し、なぜそうしなければいけないのかなどを具体的に連続10回と数回のフォローにより1回あたり6組の保護者のみでトレーニングを行う。保護者同士の接触により、当事者同士での悩み相談などのコミュニケーションの場を提供し、孤立を防ぐ。	障害を持ったお子様の支援はある程度制度としてあるが、その保護者に対する接し方や考えなどの支援はなく、それが児童虐待につながり、本人の発達段階に必要な支援が受けられないことで、行動障害につながりやすさを防ぎ、当事者同士と触れ合うことで孤立化を防ぎたかった。	新型コロナウイルスが蔓延した時に始めたため、参加者が集まらないまま、集まっても開催ができない状態が半年以上続きました。また、連続10回という開催のため、欠席者が出たりと、難しかった。	保護者の方がお子様を再度気にするきっかけとなり、その接し方もトレーニングするため、より具体的に子供との時間を作ることができるようでした。また、ここで出会った親同士が仲良くなり、一人で悩むことがなくなるきっかけができたと思います。
9	静岡市	静清会	ポットキッチン	どなたでも	管理栄養士による栄養ワークショップ。食事を組みながら栄養について美味しく学び、健康的な食生活や地域の方向士が同じ釜の飯を食べることでお互いを気にかけてあうといったきっかけ作りの場を月2回学老所にて提供している。	法人スタッフの得意なことを活かしたコミュニティづくりとして、管理栄養士が自分の栄養知識を活用したワークショップを企画したのがきっかけです。	特になし	ワークショップをきっかけに食生活の改善に向けた取り組みを試みた高齢者の方がいたり、参加者同士がワークショップ以外でも気に掛け合うことで孤立の解消につながる事例も出てきている。
10	大阪府	みなと寮	福祉学習支援（車椅子体験）	近隣小学生	子どもたちが自分たちの学校や地域を車椅子で走行し、簡単な介助体験を通じて、地域のバリアフリーとはどういうことや、福祉活動として取り組めることは何なのかを学習してもらった。	市社協から当施設への依頼がきっかけ。児童・生徒が「共に生きる力を育む」ために、まずこの地域に暮らす様々な人々のことを『知るこ』を第一のねらいとしている。その上で、相手の立場になって考えたときに、自分なら何ができるかを考え、行動をしていくために何が必要なのかを学ぶことを目的にしている。	福祉に対して興味を持ってもらうために、いかに分かりやすく説明するか、毎回より効果的な手段を試行錯誤している。	この機会を通して、バリアフリーの必要性や介助する側・される側それぞれの立場で考えてもらう機会が設けることができた。また福祉活動に少しでも興味を持ってくれたかと思う。さらに、地域には様々な方々が生活しているということ、それらの方々は同じ社会の構成員であることも理解してもらった重要な機会になっている。
11	大阪府	みなと寮	料理教室	施設退所者、地域社協、地域NPO法人	下記を目的にNPO法人が運営している施設にて隔月で料理教室を開催。 ・施設利用者の居宅移管後の安定した食生活の確保。 ・参加者同士の意見交換場所の提供。 ・関係機関との連携を強化し単身者や生活保護受給者のサロン、情報発信の場を目指す。	・居宅移管後にカップ麺等インスタント食品ばかり食べているケースが多い。 ・介護施設や無料低額宿泊所利用者の日常生活スキルが低い。 ・居宅移管後を見据えた良い支援がないか	・居宅移管後に使えるスキルを学べたか確認できない。 ・料理を待っているだけの利用者がいる。 ・職員中心で食材の買い出しや料理を行っている。 ・外部との具体的な連携方法が定まっていない。 ・効率的に指導する方法を定める事が困難。	・利用者の外出の機会となった。 ・利用者間のコミュニケーションの場となった。 ・調理に触れる事ができた。 ・職員側に「とりあえずやりましょう」という意識が芽生えた。
12	大阪府	みささき会	デリバリー型介護予防教室	地域の健康高齢者	地域の老人会等に出向き、脳トレやデュアルタスク活動など認知症予防普及啓発活動を実施。認知機能スケールも採取し、経年の変化をフィードバック。日々のモチベーションにしたい。	大阪大学精神医学教室、産業科学研究所、統合医療部門の先生方と、非薬物による認知症予防研究を共同で実施。得られた知見や活動内容を地域住民に還元することを目的に実施。	開催地域と開催頻度を増やしてほしいという依頼があるが、すべての要望には応えられていない。	認知症予防に対する意識が上がっており、認知機能スケールの結果、維持されていることに大変喜ばれ、日頃の生活のハリになっているとの感想が多く聞かれる。
13	大阪市	ライフサポート協会	区の施設連絡会（事業者の団体）によるガイドヘルパー講座	地域の失業者等	失業された方・生活困窮の方などに対し、講義2日と実習1日で取得可能なガイドヘルパー講座を無償で開催。場所は区の社会福祉協議会で調整。講師は区内の施設連絡会が分担。事務局（行政届出・受講者申し込み受付）はライフサポート協会が引き受ける	施設連絡会としては人材確保の問題があり、求職者側は何をどのようにして学べばいいかの入り口がわからない問題があった。短時間で安価（今回の場合は無料）で取得できる資格講座の普及を図った		令和3年9月に実施し、約20名の参加があり講座を修了した。そのうち3名程度が講座修了したことを生かして就労した。
14	姫路市	ひびき福祉会	あおぞら市	地域のお年寄り、特別支援学級の子供たち、居場所づくりとして	地域の住民や生活困窮者にむけてコーヒーやパンを安く提供し、居場所として活用してもらい、リサイクル品やグッズの販売で楽しんでもらう。地域のお年寄りや子供たちが楽しめるイベントをする。	最初は自分たちだけで駐車場を使ってイベントをしたいという思いがあり、3か月に一回程度実施していたが、広く知ってもらおうと地域の住民や小学校へもチラシを配りに行きだした。	福祉会ということで、地域の方が入りにくい。周知が難しい。	近くの谷外小の子供たちが外出のきっかけとして校内の取り組みとして来てくれるようになった。地域の方も少しずつ来てくれることで、張り合いになっている。